

松江藩主松平宗衍・治郷二代の寵愛を受けた

江戸詰藩士・萩野信敏 ――天愚孔平伝――

松江歴史館学芸係主幹 (学芸員) 西島 太郎

はじめに

謎だったその生年。①「烈士録」文化14年4月3日没。生年不明。②萩野信敏の墓碑銘「享保二年(1717)丁酉年五月二十九日生、文化十四年(1817)丁丑年四月一日歿、享年百有一」101歳説。③自ら110歳など記す。1993年紹介の「萩野信敏譜」・享保18(1733)生。土屋侯保『江戸の奇人 天愚孔平』(錦正社、1999年)・享保16生か。中野三敏『江戸狂者伝』(中央公論社、2007年)・享保17頃→享保18。2015.12―2016.2 特別展「江戸のグラフィックデザイン 千社札の元祖天愚孔平」

1 萩野家

松平家3代藩主綱近つなちかの代に、元祖玄玖げんきゅうが江戸詰つめの藩医はんいとなったことに始まる。

2 2代目萩野春庵はるのぶ(珉みん・復堂ふくどう)

28歳で父の後を継いで、藩の奥向きの医者(侍医)となる。5代宗衍の読書指南を勤める、政治向きを輔佐、300石。藩主宗衍むねのぶに学問を20年近く教えた。8代將軍徳川吉宗から医官に抜擢されるが、官位に興味なく辞退し、70歳で隠居、78歳で没。

享保16 1731 松平宗衍(3歳)、6代藩主となる

3 3代目萩野信敏はるのぶとし(天愚孔平。通称喜内)

享保18年(1733)萩野伊三郎(天愚孔平)、2代目萩野春庵(珉・復堂)の嫡子として江戸麹町に生まれる(1歳)。姓は平、通称は喜内、字は好古、名は子敏、鳩谷。中年から姓を孔平、字を信敏、名を求之と改め、天愚を別号とする。

延享1 1744 父が5代藩主宗衍むねのぶに学問を20年近く教えた関係から、春庵の子・伊三郎(天愚孔平、12歳)は、4歳年上の藩主宗衍むねのぶの遊び相手である「御伽」役を勤めた。天愚と宗衍との信頼関係始まる。「烈士録」最初の項には「御伽」として召し出されたことを記す。 12歳

延享2 1745 藩政改革(延享の改革) 始まる 13歳

延享3 1746 伊三郎(天愚)、「御扈從見習」となり、名を「喜内」と改める 14歳

延享4 1747 藩主宗衍、小田切備中を輔佐に諸政を親裁する 15歳

寛延1 1748 義田法を実施する。木実方(櫛蟬)の創設
喜内(天愚)、「御扈從本役」となる
宇佐美惠助(瀧水・39歳)、萩野喜内(天愚)の父春庵の推薦により、松江藩江戸詰の儒者となる。
喜内、宇佐美惠助に学ぶ 16歳
松平治郷(不昧)生まれる

宝暦2 1752 藩主宗衍、家中制法を定め、親裁を終える 20歳

宝暦5 1755 喜内(天愚)、藩主宗衍の上京に御供し、また近江多賀社へ代参する 23歳

宝暦6 1756 喜内(天愚)、若殿様(松平不昧・6歳)・駒次郎(不昧弟の雪川)の庖瘡のため、伊勢神宮・多田社・武蔵国の庖瘡神へ代参する 24歳

宝暦7 1757 桃白鹿(36歳)、松江藩の国元での儒者となる 25歳

宝暦8 1758 桃白鹿、松江母衣町の私宅で、藩校・文明館を開く
喜内(天愚)、病身により「御扈從」御免となり、「御広間」勤仕となるも、本復の際は再び「御扈從」勤めるよう命じられる。「江戸御扈從番組」に入る
この頃までに、村上氏の娘・奈遠と結婚 26歳

宝暦10 1760 喜内(天愚)、家督を継ぐ。300石 28歳

宝暦11 1761 喜内(天愚)、父春庵の勤功および殿様の「御馴染の者」であるため、格式は組外となる 29歳

宝暦12 1762 父春庵(珉・復堂)が編纂し、子の喜内(天愚)が増訂した『東藻会彙』(詩文用語集)が刊行される 30歳
⇒父の学究を受け継ぐ。

明和1 1764 喜内(天愚)、「御広間方」・「御使者」などの勤め良く、褒美を藩からもらう 32歳

明和2 1765 『絵本吾妻花』挿絵に千社札見える(初期の札貼り)

明和3 1766 喜内(天愚)、「信敏」の名を使い出す。
信敏(天愚)、宇佐美惠助(瀧水)編著の『徂徠先生素問評』の跋文を著す 34歳
⇒宇佐美惠助の優秀な弟子。

明和4 1767 松平宗衍、藩主を辞め、松平治郷(不昧)が7代藩主となる。明和(御立派)の改革始まる。
「東藻会彙」の地名部『東藻会彙地名箋』が刊行される 35歳
父春庵(珉・復堂)、死去する。78歳

明和8 1771 信敏(天愚)、『張仲景論集解叢』(張仲景が著した医学書『傷寒論』の注釈書)を刊行する。39歳
⇒初の単著は医学書の注釈書。

明和9 1772 田沼意次、幕府老中となる。隠居した前藩主・宗衍の「御納戸役」と「御側医」を兼勤し、かつ松平治郷(不昧)の実母・歌木殿の「御用」請け役を勤める 40歳

安永3 1774 杉田玄白・前野良沢ら『解体新書』を刊行 42歳

安永5 1776 信敏(天愚)の師・宇佐美惠助(瀧水)、死去する。67歳 44歳

安永6 1777 前藩主・宗衍、剃髪し「南海」と号す

信敏(天愚)、前藩主・宗衍の「御納戸役」と「御側医」を解かれる

信敏(天愚)、孔子と平氏の子孫だと自称する「孔平(くひら)」姓を使い出す。

この頃から虚言と奇行が始まると推定される

⇒大槻如電『少年読本第五十篇 大槻磐水』東京博文館、明治35(1902)刊
『言海』大槻文彦の兄。1845-1931。『蘭学階梯』大槻玄沢の孫。
虚言と奇行は前藩主・宗衍の命。45歳頃。

信敏(天愚)、国元の藩士・村上舍喜の伝記「村上君行状」を記す 45歳

安永7 1778 信敏(天愚)、前藩主・宗衍(南海・50歳)から宗衍の寿像碑碑文の撰文を命じられる(松江・月照寺の大亀)⇒碑文作成の苦勞(碑裏面)

信敏(天愚)、前藩主・宗衍から石碑「退筆塚」(宗衍筆)の陰碑(裏面)の文を選文するよう命じられる(江戸・天隆寺。月照寺に現存) 46歳

安永8 1779 塙保己一ら『群書類從』の編纂を始める

信敏(天愚)、塙保己一(34歳)初の伝記『塙勾当伝』を執筆する

信敏(天愚)、書道の本『学書捷徑』を刊行する

		信敏（天愚）、地名の本『増補地名箋』を刊行する	
		この頃までに、信敏（天愚）、人參の本『扱参捷徑』を執筆する”	47 歳
安永 9	1780	門人・岡源豹、天愚孔平の文章集の序文「徂徠鳩谷二代家文抄叙」を執筆する	
		信敏（天愚）、『出雲天隆公碑記』を刊行する	48 歳
		⇒門人の存在と文章集の刊行。	
天明 2	1782	前藩主・宗衍、死去する。	54 歳
		信敏（天愚）、 <u>「御者頭役」・「宗門奉行」・「鉄炮改」・「御関所通手形判行役」</u> を命ぜられる。	50 歳
天明 3	1783	信敏（天愚）、大槻玄沢（27 歳）が著した蘭学入門書『蘭学階梯』の序文を執筆する。	51 歳
天明 5	1785	清原太兵衛、佐陀川の開削に着手。2 年後、完成する	53 歳
天明 7	1787	松平定信、幕府老中首座となる	
		信敏（天愚）、松江藩お抱え力士・釈迦嶽雲右衛門の等身大石碑（2m27cm）の碑文を執筆する。釈迦嶽没後 13 回忌に弟子・稻妻咲右衛門が江戸・深川八幡宮に建立	
		信敏（天愚）、 <u>「川々御普請御手伝」・「御用掛り御役人」</u> を命ぜられる	
		この頃、信敏（天愚）、 <u>関東の荒川・隅田川の治水策</u> を説く『荒河営説』を執筆する	
		この頃か、信敏（天愚）、 <u>治政の大要</u> を述べた『推政施政』を執筆する”	55 歳
天明 8	1788	大槻玄沢『蘭学階梯』出版	
		信敏（天愚）、福知山藩主・朽木昌綱が編纂・刊行した古銭の書『彩雲堂蔵泉目録』の序文を執筆する。その後、朽木昌綱著『古今分量考』『弄泉奇鑑前編』（共に 1794 年刊）の序文も執筆する	
		幕府隠密、信敏（天愚）の「江戸に幕府の交易所を設け、自分を奉行にすれば物価の地域格差を無くすことができる」との発言を記録する（『よしの <u>聊子</u> 』）	56 歳
寛政 1	1789	信敏（天愚）、福知山藩主・朽木昌綱が編纂・刊行した世界地理の書『泰西輿地図説』の序文を執筆する	
		この頃、信敏（天愚）の語った幕府老中・松平定信批判（儉約政策の批判）を、松江藩儒・桃白鹿が随筆『坐臥記』に記す	57 歳
寛政 4	1792	この頃、江戸屋敷における勤番の合理化を説いた「負陽献芹婆心録」を執筆する	60 歳
寛政 6	1794	信敏（天愚）、 <u>「関東筋川々御普請御用」</u> を命ぜられる	
		信敏（天愚）、関流和算の祖・関孝和の墓碑文を執筆する”	62 歳
寛政 11	1799	神社仏閣への千社札貼りや交換会の活動が、江戸町触れにて <u>禁止</u> される	
		<u>嫡子の彦一郎（信龍）</u> 、藩に召し出され、「格式組外」「御側役見習」を命ぜられる	67 歳
寛政 12	1800	信敏（天愚）、 <u>「新番組土支配御書方」</u> の兼勤を命ぜられる	68 歳
享和 2	1802	2 月、出雲国松江の古志原にて旗揃が行われ、信敏（天愚）は「棒火矢師」として参加する。70 歳	
		江戸赤坂藩邸にある玉川の滝についての碑が修復され、その陰碑（裏面）の文を信敏（天愚）が執筆する⇒松平治郷期	
		信敏（天愚）、広瀬周伯著の蘭学書『三才窺管』の序文を執筆する	
		<u>次男の岩蔵（信鳳）</u> 、藩に召し出され、「御子様方附」「御抱守本役」を命ぜられる	70 歳
文化 1	1804	小村茂重、日光へ行き、御種人參の製法を伝授される	72 歳
文化 2	1805	信敏（天愚）、 <u>「御番頭格」</u> を命ぜられ、老年により「御書方」を解かれる	73 歳
文化 3	1806	松平治郷（不昧）、藩主を辞め、松平斉恒（16 歳）が 8 代藩主となる	74 歳
文化 7	1810	松江石橋町の面高屋助三郎が心中。助三郎と文仲間の松原基の依頼で、墓碑を撰文	78 歳
文化 13	1816	7 月、信敏（天愚）、隠居を藩から認められる	
		8 月、信敏（天愚）、三河国（愛知県）岡崎の大樹寺にある徳川家康ゆかり貫木について、松平不昧が記した書の箱の裏書を執筆する	84 歳

文化 14	1817	4 月 1 日、信敏（天愚）、江戸で死去する	85 歳
文化 15	1818	4 月 24 日、松平治郷（不昧）、江戸で死去する（68 歳）	
文政・天保頃	1818-44	千社札仲間「連」が生まれ、「連札」が登場する	
		錦絵（浮世絵）と融合し、多色摺りの交換札が制作され、札の大きさの統一、江戸文字が確立される	
嘉永 3	1850	悦翁田定賢編『題名功德演説』が刊行か。納札を再興し広めた人物として信敏（天愚）をあげ、その功績が記される。寛政 2・1790 年刊行・58 歳・土屋説では、納札の行為が理論化される。	
		『武江年表』（天愚没年の条）に、振り出し竿による納札方法を編み出したのが信敏（天愚）だと記される	
安政 2	1855	安政の大地震	
		以後、復興景気の恩恵を受け納札界は隆盛を極める”	
安政 5	1858	仮名垣魯文著『神社仏閣納札起原』が刊行される	
安政 6	1859	納札界初の各「連」合同の大規模交換会「大会（おおがい）」が開催される	
明治 1	1868	明治維新	

4 天愚孔平の千社札を読む

（右上）	けつり	
	男關里〈信龍〉東魯〈信鳳〉女〈三璵〉〈治容〉	
	<u>りやうとうろほう</u>	
（中央）	鳩 谷 天 愚 孔 平〈信敏〉〈求之輔〉	
	<u>きうこくてんぐこうへい</u>	
（左上）	。 。 。 。 。 。	
	<u>探真探勝時遇／古祠呼童投刺／良縁名題一揖／而去壺膽拜矣</u>	
（左中）	<u>花紅葉何／か恵の外な／らぬ咲きて散／間を俤にして</u>	
（左下）	江都城西洙泗關里叟／宣尼遠孫天明辛子遊／（字体を変えて）南無阿弥陀仏／（日蓮の字体に似せて）妙妙法蓮華經／（もとの字体で）台真禅律所伝法然／親鸞叮嚀日蓮時宗／各講神道兩部比醒	
（左下）	<u>青蠅も牛にひかれて善光寺</u>	

おわりに

宗衍、治郷（不昧）、斉恒 3 代藩主に仕えた。なかでも治郷のほぼ全生涯を見届けた人。

父春庵（珉）	①宗衍の側医 → 宗衍と信敏（寿蔵碑など）
	②宇佐美恵を藩儒として推薦 → 治郷・信敏の学問の師匠、御立派改革の顧問
信 敏	①塙保己一を見出す → 保己一、8 代斉恒に教える → 9 代斉貴の「出雲版延喜式」校訂
	②信敏と治郷 → 治郷妹の夫・朽木昌綱・昌綱著作序文 → 大槻玄沢「蘭学階梯」序文
	③書の達人であるとともに諸政への意見を具体的に書物に残した人
	④千社札という江戸文化の創造者